

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部

看護学科・理学療法学科・作業療法学科・医学一般教育

地域連携・出張講義ハンドブック 2023

— 私たちがみなさまとともにできること —



ハンドブック作成にあたり

国際医療福祉大学小田原保健医療学部では「社会に開かれた大学」を実現するため、平成18年の開学以来「市民公開講座」を開催するとともに、生涯学習社会の実現と地域貢献を目的とする諸活動を行っています。

また、小田原キャンパスの教員が大学の中だけでなく、地域の保健福祉施設や地域の方々のニーズに応じて学外で活躍することも、地域に役立つ大切な役割と考えています。

そこで、本学部教員の研究テーマや研究分野を一覧にした冊子により、本学部に所属する教員の活動内容を理解していただくとともに、地域で行われている各種学習会や保健福祉活動等をお手伝いするきっかけになれば幸いです。

目次

<看護学科>

学科の特長	1
所属教員紹介	2
管理・基礎看護学分野	3
リプロダクティブヘルス看護学分野	4
小児看護学分野	5
成人看護学分野	6
老年看護学分野	7
精神看護学分野	8
地域・在宅看護学分野	9
公衆衛生看護学分野	10
養護教諭課程分野	11

<理学療法学科>

学科の特長	12
所属教員紹介	13
基礎系理学療法分野	14
運動器系理学療法分野	15
神経系理学療法分野	16
呼吸系理学療法・代謝系理学療法分野	17
地域支援分野	18

<作業療法学科>

学科の特長	19
所属教員紹介	20
身体障害分野	21
精神障害・地域作業療法分野	22
小児（作業療法）・老年期障害分野	23

<医学・一般教育>

学科の特長	24
所属教員紹介	25
解剖学分野	26
外国語分野	27
外国語学習分野	28
情報科学・教育学分野	29

小田原保健医療学部

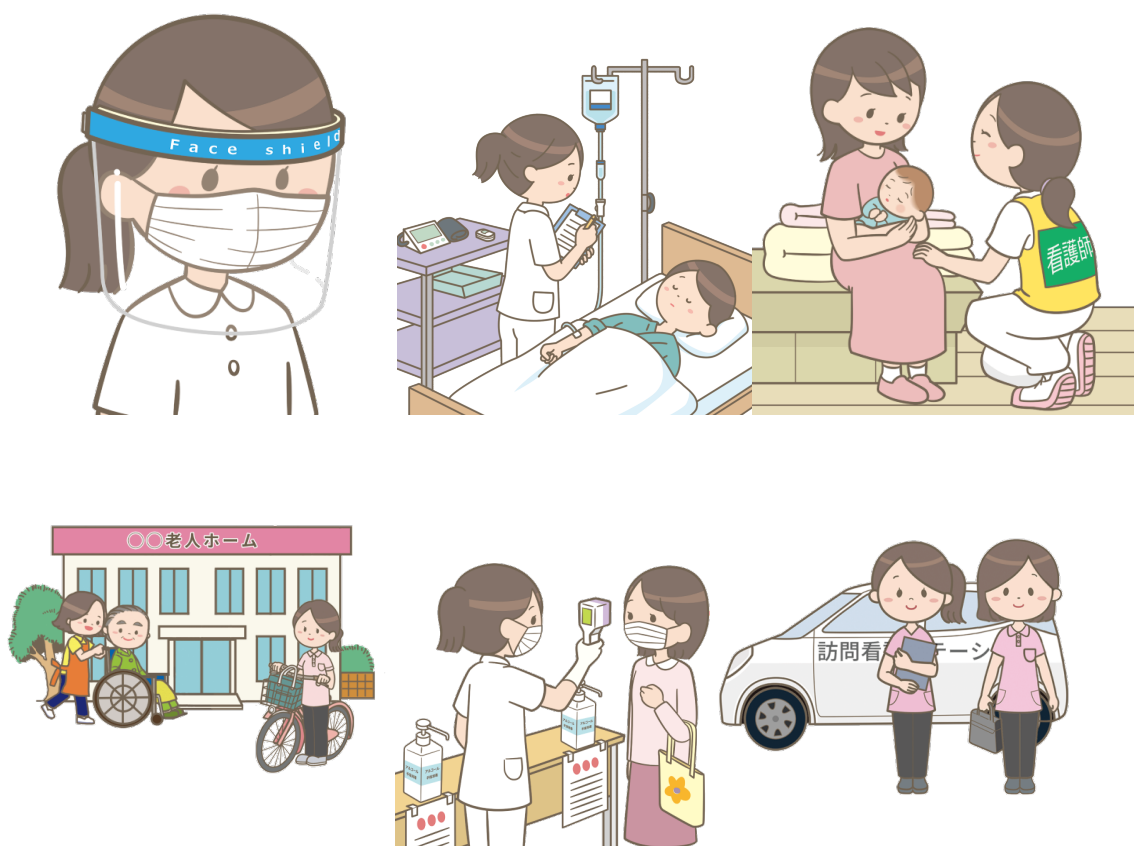
看護学科

< 学科の特長 >

医療や福祉の現場を支える看護師の役割は多様化し、ケアへの期待も広がっています。

看護学科では、看護の基礎から応用までの知識や技術の修得はもちろん、実践の場で欠かせない的確な判断力や幅広い教養、深い人間理解、コミュニケーション能力を育成しています。

また、病院や学校、行政機関、企業、医療福祉施設において質の高い「臨地実習」を数多く積み、看護専門職者としての優れた思考力や実践力を備えた、社会貢献できる医療人を養成しています。



所属教員紹介

分野	氏名
管理・基礎 看護学分野	熊谷 たまき 鈴木 紀子 川島 悠 處 千恵美 佐藤 由理子 白田 ゆきの
リプロダクティブ ヘルス看護学分野	松嶋 弥生 山本 江里子
小児看護学分野	吉岡 詠美 間明田 路子 宮山 涼子
成人看護学分野	富澤 栄子 小林 淳子 渡辺 英子
老年看護学分野	横島 啓子 皆田 良子 鷹嘴 亜里
精神看護学分野	石村 佳代子 後藤 雪絵 田中 有紀
地域・在宅 看護学分野	谷山 牧 橋本 理恵子 保母 恵
公衆衛生看護学 分野	斎藤 照代 渡部 瑞穂 牧 千亜紀
養護教諭課程 分野	川崎 夫佐子 牧 千亜紀（兼任）

<管理・基礎看護学分野に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 家族が病気になった時にできることー生活を整えるー
- 歴史から学ぶ家庭看護の心
- 災害に備えて学ぶ包帯法
- 看護学生の学び・成長
- 日ごろからの備えが大切ー見直そう災害への備え
- 看護職の仕事
- 看護の学びを通した研究の面白さ

ー研究分野ー

- 看護の基本となる知識や技術について 日本の医療や看護の歴史を踏まえて研究しています。今に続く看護用品の歴史をはじめ、家族が病気になった時にどのように看護すると良いのかを具体的にお示しします。
- シミュレーション教育や協同学習を用いた教育効果について研究しています。
- 教材開発を行い、その教育効果について研究しています。
- 災害はいつ起こるかわかりません。過去の災害からの教訓から学び、ひとりひとり日ごろからの備えが大切です。一緒に考えてみませんか。
- 看護の仕事を具体的に紹介すると共に、期待される役割について考えていきます。

＜リプロダクティブヘルス看護学分野に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- マタニティライフの過ごし方
- 私らしい子育てのスタート
- お母さんのこころとからだを癒す
- お母さんのセルフハンドマッサージ！
- 月経痛とセルフケア
- 月経前症候群とは
- 月経異常と婦人科受診

—研究分野—

リプロダクティブヘルス看護学では、生涯にわたる女性の健康を性と生殖の側面から捉え、その健康課題の解決に向けた支援について研究しています。

- 妊娠・出産・育児期の健康生活への支援

お母さんの身体や自己管理に関する研究に取り組んでいます。

- お母さんの内的プロセスへの支援

妊娠期から出産・育児期へと、さまざまな葛藤を抱えるお母さんの内的プロセスを支えるために、母親の“存在の意味や価値”づけを促す等、実存的視点での支援について研究しています。

- 地域の子育て支援に関する企画・運営ならびにそれに対する助産師としての助言や職員の方々へのサポート等、妊娠期からの「切れ目ない」支援の一環に取り組んでいます。

- 月経痛とセルフケアについて

現代女性は晩婚・晩産のため、初潮から出産までの期間が長く、月経痛が強くなる若い女性が増えました。

月経痛をセルフケアする方法を研究しています。

- 月経異常と婦人科受診

月経不順をはじめ、月経困難症や月経前症候群に悩む若い女性が増えていますが、日本では若い女性の婦人科受診率が低いため、月経異常を自分で見つけれられる支援について研究しています。

<小児看護学分野に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 子どもの成長発達
- 子どもの安全と対策
- 子ども特有の症状（呼吸器症状、痙攣、胃腸症状）とその看護
- 子どもの気持ちを尊重したかわり
- 医療的ケア児とその家族への看護

- 研究分野 -

小児看護学分野では、看護の対象である子どもと家族、小児看護に携わる看護師、学部における小児看護教育など幅広く研究しています。

<小児看護における看護倫理教育>

看護師は、「看護職の倫理綱領」（日本看護協会,2021）の中で、患者の尊厳をまもり尊重すること、患者の意思決定を尊重することなどが示されています。小児看護においては、成長発達の途上にある子どもへの看護実践に合わせ「改訂版：小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」（小児看護学会,2022）が示されています。これらを踏まえ、看護師と看護学生が子どもの気持ちを尊重した看護を実践できるよう、看護倫理教育と具体的な看護実践について探求しています。

<看護学生の小児看護学実習におけるストレス研究>

現在の学生は、少子化の中で育ち、子どもとの関わりが少ない現状があります。学生は、子どもと関係性を築き看護実践を行うことに、様々なストレスを感じています。これらを踏まえ、学生がストレスを感じながらも子どもたちとコミュニケーションを図りながら看護を実践できるよう、学生への教育的支援の検討を行っています。

<小児看護学実習における看護学生の家族支援に関する研究>

看護学生は、限られた実習期間の中で、患児および家族と関係性を築くことに苦慮している現状があります。学生が子どものみならず家族に焦点を当てた看護を実践できるよう、学生への教育的支援を研究しています。

<医療ケア児とその家族への看護>

近年、新生児医療および小児医療の進歩などに伴い、超未熟児や先天的疾患をもつ子どもたちの命を救うことが可能になり、「医療ケア児」が年々増加しています。医療ケア児が生活する場においても、看護師の役割は重要であるため、医療ケア児とその家族への看護について探求しています。

＜成人看護学分野に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- **元気に生き生き人生エンジョイ**
 - －生活習慣病予防について
 - －がん予防のための生活習慣やがん検診について
 - －骨粗鬆症予防について
 - －スポーツ場面の応急処置について
- **人生の最期の過ごし方を一緒に考えてみませんか**
 - －ホスピス・緩和ケアについて
 - －家族介護について
- **病気と上手に付き合おう**
 - －糖尿病の自己管理、合併症の予防、悪化防止について
 - －脳卒中の自己管理、再発予防について

－研究分野－

成人看護学とは、青年期から向老期までの幅広い年齢層である成人期を対象としています。成人看護学領域では、疾病の予防を含めた健康の保持・増進、疾患の状態に応じた回復への援助や症状緩和、終末期ケアなど、様々な健康問題への支援に関して、以下のような研究を進めています。

＜健康増進の支援＞

成人期の健康の保持増進は、自分ひとりだけでなく、家族、社会にとっても重要です。そのための疾病予防や自己管理の支援、健康教育について研究しています。また、健康の保持・増進のためにスポーツをされている方が急増しております。安全にスポーツを楽しむための支援について研究しております。

＜教育方法に関する研究＞

がん患者をはじめとする様々な疾患患者とその家族に寄り添い、患者にとって必要とされる看護が実践できる力を育む教育方法について探求しています。

＜糖尿病やその合併症を持つ人の自己管理支援の研究＞

糖尿病を発症し、様々な合併症を抱える方の「自己管理を促進するための動機づけ」の支援について研究しています。

＜脳卒中患者の自己管理支援の研究＞

脳卒中患者の自己管理に対する支援について、また急性期からの途切れのない支援のあり方に関する研究をしています。

＜家族介護に関する研究＞

家族に介護が必要となった場合、誰が介護を行いますか？社会状況の変化から家族形態も変化し、家族介護の在り方も変化しています。家族介護のあり方や支援について研究をしています。

＜老年看護学分野に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- 生き生き過ごす高齢（幸齢）期
- 高齢者の病気と健康
- 高齢者と災害対策
- 高齢者施設の看護の実際
- 認知症高齢者とのコミュニケーション方法
- 高齢者の介護—ストレスをため込まない介護方法

—研究分野—

超高齢社会の中、高齢者が生き生きと生活できるよう健康の保持と増進と予防に関する支援の方法に関しての研究を進めております。

現在、入院患者の約7割が高齢者です。病気や傷害で入院を余儀なくされた高齢者がもとの生活に復帰できるよう支援することは看護師の意識、技術、判断力の向上が鍵を握っているといっても過言ではありません。

急性期病院の入院期間の短縮化が進み、病状が改善すれば早期に自宅に戻ります。しかし、高齢であればあるほど、入院前のような生活に戻ることが難しく、介護の必要性も大きくなります。超高齢時代を反映して高齢者が高齢者を介護するという「老々介護」も珍しくありません。介護する方が介護を楽しく、ストレスを溜めこまず、高齢者だけでなく、介護者もともに自分らしくいられるようにしていくことが重要だと考えます。介護者の体験や思いを明確化し、具体的な解決方法を探る研究を進めております。

また、認知症予防は国の大きな課題の一つでもあります。高齢者が地域で、生きいきと笑顔で生活できるために、認知症の予防から支援について研究を重ねております。

＜精神看護学分野に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- 子どものこころの健康
- こころとからだの健康
- 地域コミュニティづくりと精神的健康

—研究分野—

＜思春期のメンタルヘルスリテラシーに関する研究＞

思春期の児童・生徒を対象とした、こころの健康教育（含む、精神疾患の予防教育）についての教材開発に取り組んでいます。

＜精神障がいをもつ当事者との共同創造に関する研究＞

経験の専門家である精神障がいをもつ人とともに、共同創造を実現するための基盤づくりに取り組んでいます。

＜身体疾患をもち自殺念慮を有する在宅療養者への訪問看護に関する研究＞

身体疾患をもち自殺念慮を有する在宅療養者への訪問看護実践モデルの開発に取り組んでいます。

＜ひとり親世帯の親子の精神的健康に関する研究＞

地域看護学研究の分野で、ひとり親世帯の親子の精神的健康について研究しています。

＜地域コミュニティと精神的健康に関する研究＞

地域コミュニティにおいて、食、住居、就労、地域の居場所を通じた地域在住者の方々のネットワークづくりと精神的健康についての基盤づくりに取り組んでいます。

＜精神障がいを持つ人の地域移行や地域定着支援に関する研究＞

障がいをもつ人が、自分の生活したい場所で自分の夢を実現できるように必要な支援について研究をしています。

＜こころの健康の維持や回復に関する研究＞

落ち込んで元気がなくなった時でも、自分らしい健康を早めに取り戻せるような支援について取り組んでいます。

＜地域・在宅看護学分野に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- いつまでも我が家で生活するために準備すべきこと
- 高齢の家族が入院するときの心得
- 家での介護を続けるためのヒント
- 経済的格差が健康に与える影響
- アドバンス・ディレクション：自分らしい最期のために
- ご自宅での看取りのための準備
- 認知症にならないために
- 地域包括ケア：地域のつながりをより高めるために
- 地域/在宅における精神保健：嗜癖、セルフネグレクト等

—研究分野—

私たちの分野では、自宅で療養されている方の看護についての講義や実習を担当しています。現在、わが国では入院患者さんの入院期間を短くして、できるだけ早く自宅に戻ることができるよう、システムの整備が行われています。しかしながら、一人暮らしの方や、ご高齢のご夫婦のみで生活されている方も増えており、その実現には課題が多いのが実情です。

私たちは、入院患者さんが早期に自宅に帰ることができるために、こういった課題があり、どのような支援が必要なのかを教育・研究しています。また、ご自身が将来的にどのように生活したいかというご希望がかなえられるため、具体的にどのような準備をしておくとういかなどの研究も行っています。

＜公衆衛生看護学分野に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

＜子どもの健やかな育ちに関連したもの＞

- 子育てに関する親への支援
- 家庭での子どもの事故予防
- 地域における発達障害児や保護者支援、乳幼児虐待予防

＜成人期の心と体の健康に関連したもの＞

- 受動喫煙対策と禁煙指導
- 生活習慣病予防について（生活習慣病にならないために）
- ストレスと上手に付き合おう
- 労働者のメンタルヘルス対策
（管理監督者・就労者自身向け等）
- 感染症対策（COVID - 19 他）
- 職域における特定健診・特定保健指導
- 地域における高齢者の暮らしを守る仕組み

＜保健師の活動（保健事業のあり方）に関連したもの＞

- 保健指導・保健事業の評価
- 効果的な保健指導の進め方（ロールプレイ等演習）
- 就労者のメンタルヘルス対策
- 職域における特定健診・特定保健指導
- 保健師の施策化

—研究分野—

公衆衛生看護学領域では、当領域が担当する公衆衛生に関する様々なテーマを取り上げ研究活動を実施しております。

産業保健分野では、関連法令等の職域の受動喫煙対策に与える影響を調査し職場の禁煙化に向けた効果的な政策や推進方法を明らかにする研究に取り組んでおります。

地域・行政分野では、保健師の行う地区活動・システム化・施策化などの研究、難病・障がい者支援や QOL、人や地域社会とのつながりに関する研究の他、認知症サポーター養成講座を行っています。

< 養護教諭課程に関する領域 >

講演タイトル例・研究分野

- 中学生へのアレルギー予防教育
- 中学生へのくすり教育
- ～養護教諭・学校薬剤師との連携による保健学習～
- 中学校・高等学校の保健学習
- ぜんそくを中心としたアレルギーについての健康教育
- メンタルな問題にかかわる教師の対処スタイルと資質
- 不登校への対応
- ～教師と養護教諭の連携について～
- 中学生へのストレスマネジメント教育
- 発達障害のある子どもと家族への支援

—研究分野—

< 養護教諭養成に関すること >

日本養護教諭養成大学協議会に加入し、全国の養護教諭養成にかかわる大学・短期大学及び大学院の相互に連携し、養護教諭養成における教育課程（カリキュラム）に関する研究をしています。

< 発達障害のある子どもと家族の移行を支える協働型看護ケアガイドラインの開発 >

発達障害のある子どもの発達上の移行支援において、医学的・社会心理的・教育的・職業的支援が不可欠であり（米国思春期学会,1993）、教育保健医療福祉等の連携体制づくりや一貫した継続支援が重要です。特に就学時においては学校内、校種間の就学期の移行支援に留まらず、学校-地域の生活の場の移行も視野に入れた多職種協働による移行支援の明確化、実践での活用可能な協働型ガイドラインの開発が喫緊の課題であるので、多職種が協働して発達障害のある子どもと家族の生活と発達の連続性をふまえた就学前から就学後の支援を可能とする支援ツールとなる協働型看護ケアガイドラインの開発に関する研究をしています。

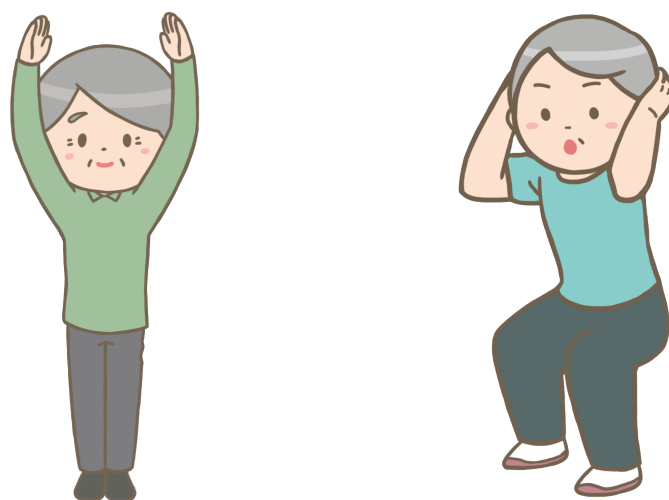
理学療法学科

<学科の特長>

病気や事故、加齢、フレイルなどにより低下した基本的な日常動作能力の回復をめざし、快適で質の高い生活を取り戻す支援をするのが理学療法士です。

リハビリテーション、保健や福祉、スポーツ、介護予防、救急医療など活躍の場も多岐にわたります。

理学療法学科では、医療現場で求められる専門職としての高度な知識やスキルを修得します。さらにコミュニケーション能力を磨き、人間性にあふれた人材を養成しています。



所属教員紹介

分野	氏名
基礎系理学療法分野	前田 佑輔 須藤 大輔
運動器系理学療法分野	齋藤 孝義 豊田 大輔 細川 真登 山口 将希
神経系理学療法分野	金子 純一郎 今井 祐子 右田 正澄 山口 将希
呼吸器系理学療法分野	久保 晃 大武 聖 須藤 大輔
代謝系理学療法分野	久保 晃 大武 聖 須藤 大輔
地域支援分野	齋藤 孝義 豊田 大輔 和田 三幸

＜基礎理学療法に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- 理学療法とは???
- 三次元の動きからみる動作の分析

—研究分野—

理学療法の歴史、定義、仕事内容、現在求められている役割など、我が国の理学療法の誕生から現状までわかりやすくお話します。

三次元の動きをみる手法を用いた、人の動作を分析する研究を実施しています。人の動作を PC 画面上で視覚的に表示する技術だけでなく、動作を遂行するために必要な筋力の発揮パターンや腰、関節にかかる負担も分析できるため、スポーツ動作の分析、疾患患者の動作分析そして身体負担を軽減する福祉用具の開発、安全な介助・介護方法などの研究に用いられています。

これらの研究の成果をもとに、より効果的で安全な運動の学習方法や三次元の動きをみる技術による理学療法分野への応用についてのお話が出来ればと思っております。

<運動器系理学療法に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 肩・腰・膝の痛みに対する予防的、緩和的運動療法
- ストレッチのいろいろ
- 痛みをやわらげる理学療法
- 筋力に関する研究
- スポーツ傷害が健康に及ぼす影響
- 下肢傷害に関する研究
- 転倒予防
- バランス
- めまいと運動

—研究分野—

運動器系理学療法分野では、硬くなった関節や筋肉、関節や神経に起因する痛みの軽減、関節可動域障害の改善を目的にアプローチ（マッサージや温熱療法など）を行っています。

その代表的な技術として伸張運動（ストレッチ）を用いるのですが、正しいストレッチの方法を理解している指導者が多いとは言えません。そのため、小学生のうちからケガをしてしまい、将来の夢を失ってしまう少年が多くいることについて問題意識を持っています。

そこで我々は、けがや傷害の予防に用いる正しいストレッチ方法（実施のタイミング、強度、時間、頻度など）や、適切なトレーニング方法を研究・指導しております。

合わせて、スポーツ傷害の発生推測や予知、予防に役立て、安全で快適な日常生活やスポーツ活動に貢献できるよう研究を行っています。

理学療法士は疼痛を有する方に対して理学療法を行うことがあります。疼痛のメカニズムは複雑であり、身体的な要因だけでなく心理や社会といった要因も関係してきます。このように複雑なメカニズムを持つ疼痛に対する理学療法について説明をします。

また、高齢者の下肢の骨折は転倒時に起こることが多いです。転倒は、下肢の筋力低下や全身的なバランス感覚の低下によって引き起こされます。転倒予防のための筋力やバランスの維持向上について検討しています。

<神経系理学療法に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

<脳卒中について>

- 脳卒中者のリハビリテーション
- 脳卒中者の介助方法
- 脳卒中者の福祉用具

<パーキンソン病について>

- パーキンソン病者のリハビリテーション
- パーキンソン病者の介助方法
- パーキンソン病者の福祉用具

<脳のしくみについて>

- 脳の不思議を感じてみよう
- 脳の機能を知ってみよう

—研究分野—

この分野では、脳疾患である脳卒中やパーキンソン病に罹った方々に対するリハビリテーション（運動療法）および介助方法について研究しています。リハビリテーションは入院中だけではなく、退院後自宅でも継続することが必要です。可能な限り身体機能を維持・改善するために、家庭でできるリハビリテーションについても検討しています。更に、身体機能を改善するためのアプローチだけでなく、福祉用具の活用方法についても検討しています。

また、脳の病気には身体の障害だけではなく、物事进行处理することが困難になることもあります。どうしても、身体の障害に注目されてしまい、目に見えない障害には気付かれません。そのため、脳の症状には様々な種類がありますが、周りには理解されにくいことが多いです。そこで、そもそも私たちの脳にはどのような機能が備わっているかを体感していただきたいと思っています。私たちの環境を少し変えるだけで、自身の感じ方を簡単に変化させることが可能となり、体験する運動自体の主観が変わることを体験して下さい。

<呼吸器系・代謝系理学療法に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 呼吸をするために必要なこと
- 急性期から在宅までの呼吸ケア
- 息切れが気になるとき

—研究分野—

普段、呼吸することに意識をして生活している方は少ないのではないのでしょうか？しかし近年、生活習慣病として取り上げられているタバコ病（慢性閉塞性肺疾患）に日々悩んでいる方たちも少なくありません。医療機関では病気が重症になる前に禁煙指導から薬物療法、生活指導など様々な治療・対策行われています。リハビリテーション（呼吸理学療法）は、呼吸に悩まず日々の生活を楽に過ごすための治療の第1選択として行われています。

医療分野（急性期から回復期）から介護分野（通所リハから訪問リハ）までの臨床経験を生かした呼吸系理学療法についてご紹介いたします。

- 健康と運動の関係 —生活習慣病予防のために—
- 健康維持、増進のための運動療法
- 糖尿病患者の運動療法（合併症予防）
- 運動を始める、続けるためにはどうしたらいいか

～行動変容を促すアプローチ～

- 生活習慣と健康
- 体型と健康

—研究分野—

肥満症や高血圧などの生活習慣病予防や糖尿病治療において、運動療法は非常に重要と言えます。しかし、運動を継続して行うという事は非常に困難なことでもあります。

そこで、運動を継続して行うためにはどうしたらいいのかという事を行動科学の分野から明らかにしようと研究を行っています。

また、臨床においては糖尿病療養指導士として患者さんに対して運動指導をしていたという経験から、糖尿病患者さんに対する実際の運動療法についてもご紹介いたします。

<地域理学療法に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

<高齢者予防関係>

- 自宅でも行える転倒予防体操
- 自宅でも行える認知症予防体操
- 自宅でできる簡単レクリエーション
- 治療の目で見えるレクリエーション

—研究分野—

急性期病院から回復期、在宅医療までの臨床経験を通してリハビリテーションの流れやよりよい在宅生活を送れるように、現在も地域高齢者への支援を継続しています。



小田原保健医療学部

作業療法学科

< 学科の特長 >

作業療法士は心や身体に障害を持つ人々の身体的機能・心理的機能の回復を図り、家庭や社会で自分らしい生活を取り戻せるように支援する職業です。障害を治療し治すことだけではなく、障害が残ったまま生活をするようになった時に、仕事や趣味、家庭内での役割を果たしながら、ご本人の希望する生活が快適に送ることができるようにさまざまな工夫を提案し練習します。

作業療法士は、急性期や回復期の病院、老人保健施設や通所施設・訪問事業所、障害者就労支援施設、特別教育支援学校・学級などで活躍しています。

作業療法学科では、高度な作業療法の知識と技術を学び、柔軟性と応用力を身につけたスペシャリストを育成します。



所属教員紹介

分野	氏名
身体領域	北島栄二 出口弦舞 富永涉 岩上さやか 山本潤
精神領域	河野眞
発達領域	午腸昌利 長志保
老年領域	窪田聡 甲本夏穂 古舘卓也

<身体の障害に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

<生活について>

- 座る姿勢について
- 障害を持った後の生活再建のために必要な支援
- 食べること（嚥下）の障害とその対策について

<病気・病院について>

- 病院のリハビリテーション（作業療法）
- 脳の病気について
- がんと作業療法について
- 脳のはたらきとその障害について

<医療・福祉機器に関して>

- 車いすの選び方・安全な使用について
- 寝具の選び方
- 歩行補助具の選び方
- 在宅・施設生活を支える福祉用具について

—研究分野—

この分野は、骨折などの外傷、脳や脊髄の病気で、身体に障害を有した方々を対象に研究を行っています。生活に必要な身体機能や活動する能力、さらにはその後の在宅生活に求められる能力を高めるためのことを考えています。また、居住環境の調整や生活に必要なもの（福祉用具等）の選定も検討しています。また身体だけでなく、脳卒中や交通事故による頭部外傷などによる、高次脳機能障害（記憶障害など）と言われる脳の障害についても研究をしています。

<心・精神の不調に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- ・ ライフスタイルとストレスについて
- ・ ストレスからくるからだの症状と対応について
- ・ 精神疾患を有する方の生活のしづらさについて
- ・ 精神疾患への理解について

ー研究分野ー

くらしの中で、ストレスは誰でも感じるものです。ストレスがかかると、心身に歪みが生じます。長期間のストレスは病気を引き起こすこともあります。睡眠や食生活、軽い運動などがストレスを緩和することが分かっています。ストレスとの上手な付き合い方について、ライフスタイルの点から研究を行っています。

また、精神疾患の啓発活動にも携わらせていただいています。精神疾患を有する方の生活のしづらさやその対応についての研究も行っています。

<地域生活に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

<諸外国>

- ・ 国際的なリハビリテーションについて

<地域>

- ・ バリアフリーのまちづくりについて

ー研究分野ー

日本にとどまらず、諸外国のリハビリテーションに対する取り組みについて研究を行っています。国外のリハビリテーションを理解することで、国内の医療の充実につながるものとなっています。また、地域生活として、年齢や障害に関係なく、誰もがくらしやすい住まいやまちづくりについての研究を行っています。障害をもつ方の住まいの工夫は屋内の手すりだけではありません。そして大規模な住まいの改修をしなくても、暮らしを継続できることもあります。

＜子どもに関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- 発達障害児・脳性まひ児のリハビリテーション
- 子どもの遊びの発達について
- 落ち着きがない・反応の乏しい子どもへの関わり方について
- 子どもの問題行動への対処法について
- 子どもの発達と脳機能について
- 障害をもつ子どもの住まいについて

－研究分野－

この領域では、様々な障害を持つ子ども達が主体的に家庭生活や園生活、学校生活を過ごしていくために必要な「子どもの発達」と「障害児を育てる家族への援助方法」を様々な側面から研究を行っています。特に、「遊びの発達」や「脳機能の発達」といった発達の側面と、「なぜ落ち着かないのか」、「なぜ問題を起こしてしまうのか」といった障害の側面とを重ね合わせながら検討を行っています。

＜加齢による障害や認知症に関する領域＞

講演タイトル例・研究分野

- 高齢者の住まいについて
- 認知症と住まいについて
- 認知症とコミュニケーションについて
- 認知症のリハビリテーション（回想法）
- 床ずれ（褥瘡）対策・予防のための環境づくり

－研究分野－

この領域では、認知症の方への治療や認知症の方々との関わり方について検討を行っています。認知症を持つ方や高齢者の住まいについても、身体の障害と同じように工夫ができます。床ずれなど寝ている時間が増えると生じる問題についての検討も行っています。

医学・一般教育

< 医学・一般教育の特長 >

医療の分野を目指す人は、高度で専門的な知識・技術を身につけるのは当然として、以下に示すような「医学・一般」の幅広い知識や見識が求められています。

(1) 生命科学に対する理解

医療分野に携わる人は、生命科学に対する深い理解が求められています。生体内で起こる種々の生理現象を研究する「生理学」、および人体の構造を形態的に理解する「解剖学」などは、様々な疾患の病態を理解するためには、欠くことが出来ない学問となっています。

(2) コミュニケーション能力

医療行為を別の面から見れば、治療を介した「人と人とのコミュニケーション」と言えます。未熟なコミュニケーション能力では、治療の前提となる意思疎通は上手く構築できません。国語力はもちろん、国際化の時代を迎え英語等の語学力も、医療現場ではきわめて重要なものになっています。

(3) 情報処理能力

多くの医療機関で電子カルテやオーダリングシステムなどが導入されるなど、医療分野のIT化は急速に進展しています。これからの医療は、情報化に適切に対処できる人材を求めており、それに応える教育を実現しています。

(4) 人間性の陶冶と涵養

医療の現場においては、時として医療の教科書に書かれていることだけでは、何ら解決できないケースに直面することがあります。高度な判断は、最終的にはその人の持っている人間性や感性・教養などが問われることとなります。医療従事者に、哲学や倫理学、社会学や歴史学など、人間性を陶冶・涵養する学問が求められるゆえんです。

所属教員紹介

分野	氏名
解剖学分野	堀口和秀
外国語分野	千葉礼子 チェンバレン暁子
情報科学分野	永井朋子
教育学分野	鶴田利郎

<解剖学に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 人体解剖教育と献体
- ミクロの世界を見る ～微細形態学最前線～
- 腸の動きを調節する仕組み

－研究分野－

人体解剖学というと、一般にはなんだか少し怖いイメージがあるかも知れません。医学部で解剖業務と人体解剖教育に携わってきた教員が、解剖教育がいまどのように行われているのか、そして解剖実習のために欠かせない献体とはどのようなものなのかわかりやすく解説します。また研究としては、消化管運動（ぜん動など）を調節する細胞間ネットワークについて、電子顕微鏡などを使った形態学的解析を行っています。

<外国語に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 中英語初期宗教散文における統語法について
- 中世ヨーロッパにおける女性と識字
- 医療系大学におけるニーズアナリシスに基づく英語カリキュラ

△開発

－研究分野－

日本語にも長い歴史があるように、英語にも音や語彙は勿論、文法にも歴史があります。今も「生きて変化」しています。その中で英語が大きく変動した13世紀の初頭の書き言葉を研究しています。特に宗教な文章での、現代に繋がる文法上の変遷を追いかけています。当時、読み書き(=識字と言います)は、聖職者階級、それも男性だけに限られていました。でも、ぼつぼつと女性(ほとんどは尼僧)に向けて書かれた文書が残っています。ということは、この女性たちは「字」が読めたこととなります。当時のヨーロッパで最高の「言語」とされた「ラテン語」すら読めた可能性もあるのです！女性を排除しようとする力が大きくはたらいた時代でしたが、女性達は男性聖職者顔負けの活躍もしています。一方で女性向けの体裁をとりながら、実は一般大衆みんなが聞いて読んで「愉しめ」たかもしれない「宗教的なお話」や「説教」も残っています。楽しみの少ない時代でしたから、「説教」だって「娯楽」だったかもしれないのです。何だか一昔前の日本みたいですね。当時の社会・文化史的な視点からも英語の歴史を捉えようと研究を続けています。中世のイギリスやヨーロッパでの「医療・福祉」にもフィールドを広げているところです。

<外国語学習に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

・IT やマルチメディアを用いた英語音声教育

・マルチメディアを通して学ぶ医療英語と異文化理解

－研究分野－

国際社会の急速なグローバル化の中で、コミュニケーションのツールとしての英語の役割が一層高まる中、単に英語で書かれた情報を理解するだけでなく、英語で意見を述べ、情報を発信する能力が求められるようになってきました。また、今後、医療や福祉の現場での英語でのコミュニケーションの必要性もさらに高まると想定されます。しかしながら英語でのコミュニケーションを苦手とする日本人学習者は、決して少なくないのが現状です。英語の音声には日本語に存在しない音が数多く存在するうえ、様々な音声変化が起こります。プロソディーも英語ではとても重要です。これらの要素は英語のリスニングやスピーキングの習得をより困難にしている一因です。英語の音声に慣れるのには大量の英語に触れることが重要であることは言うまでもありませんが、併せて音声の違いや発音方法などを繰り返し意識して学習することが重要です。

今日の目覚ましいITの発達に伴い、外国語学習に有用な様々なマルチメディアやツールに容易にアクセスできるようになってきました。それらをどのように利用することでリスニング・スピーキング能力をより向上させることができるか効率的な教授法や習得のメカニズムを研究しています。

<情報科学に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 高温超伝導体における 2 次元相転移
- 学習支援の教育効果

—研究分野—

高温超伝導体における 2 次元相転移の実験、および多体系の計算機実験や量子化学に関する計算機実験に携わりました。

コロナ禍より、理数教育・学習支援のあり方について、データサイエンスの手法を用いて研究しています。

<教育学に関する領域>

講演タイトル例・研究分野

- 青少年のインターネット依存・ゲーム障害を考える
- インターネット依存・ゲーム障害の予防教育のあり方
- ソーシャルメディア時代に求められるメディア・リテラシー教育

—研究分野—

中学校・高等学校を中心に、効果的なインターネット依存・ゲーム障害の予防教育のあり方について研究しています。

国内では以前からインターネット依存が深刻な社会問題となっています。また 2019 年には、WHO 年次総会の委員会において「ゲーム障害」が国際的に疾患(新たな依存症)として認められました。

このような状況の中で、学校教育現場において効果的なインターネット依存・ゲーム障害の予防教育を実現するために、カリキュラム開発研究、教材開発研究、教育実践研究などを行っています。

《お問い合わせ》

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 総務課

〒250-8588

神奈川県小田原市城山 1-2-25

TEL 0465-21-6500

FAX 0465-21-6501

EMAIL koukaikouza@iuhw.ac.jp

URL <https://odawara.iuhw.ac.jp/>

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部

〒250-8588

神奈川県小田原市城山1-2-25

TEL 0465-21-6500 FAX 0465-21-6501

Email koukaikouza@iuhw.ac.jp

